

慶応二年八月十七日より慶応二年八月二十一日まで

P8310616 right

殿退出、薄晩（はくばん）に近し、番町へ留守見舞鮮魚一籠遣し宿下がらせし、りう女より小品贈り越旨
十七日 卯 雨終日
出 殿□詰番薄晩退出、藤山稽古に來りし旨、同氏へ陽可□番寺見舞として魚（二尾）、洋酒
一瓶寄地煙草（二□）を遣す、笠原へ此の挨拶申遣し且つ謝品□をも当らる□、須崎よし女六泊して帰る
黒天鷲絨（ビロード）□□子半襟地□二袋を遣し伯母へ一方を託し遣わす旨、土浦侯より鰻一重贈らる
十八日 辰 晴午陰夕前雨
土浦へ此の返書遣す謝として小望遠鏡を添う、石川（膳）來り面す、出 殿薄晩退出、
十九日 巳 雲

P8310616 left

第八時出宅、第十時英館に至り、夕五時半前迄談話薄暮帰宅、正革売刀持ち参りし旨
保三志願筋にて來たりし旨
廿日 午 晴
栄蔵古□帰來に付暇を願う代り村上金蔵なるもの見に來る、広沢（悦）雲丹（うに）を持参、出 殿午時より
開成所廻る同所にて展視場所残らず、仏公使初めへ一見せしむ、英亜両公使（其の前とも）□て伝聞してくる薄晩
退出、正革稽古に來る、五郎生横浜へ帰着せしとて來る一杯を勧む
廿一日 未 晴漸陰夕雨
猿劔三枚の義に付、長蔵來る、保三來る、生島（孫）來る面す、松盛亭稽古に來る、出 殿退出
薄晩を過ぐ、小川（太）過日法面贈り物の謝に來りし旨、虎二請状遣わせし旨、本日引移る、土浦侯より
粗

* 天鷲絨（ビロード）毛羽でおおった織物の総称

（内は細字双行（二行に小さい文字で二行書き）などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。